



## 地域の活動は、できることから

賑やかな商店街や、芹ヶ谷公園などの憩いの場を擁し、町田市の玄関口とも言える原町田地区。ここで、子どもや高齢者の見守りをはじめ、さまざまな地域の活動に取り組んでいるのが、原町田四丁目第二町会の岩崎俊男さんだ。「何か新しい活動をするときには、やれることからやってみよう、の気持ちではじめています。」

もともと小学校の教師だったので、子どもに関する活動に取り組んでみたかった、という岩崎さん。町田市で子どもの見守り活動が発足した後、地域の一員として活動に携わるようになったそう。横断歩道や道路といった決まった場所に立ち続けるのではなく、登下校の時間帯に家の前にちょっと立ったり、庭先を掃くついでに見守りをしたり、といった

工夫が、続けやすさにつながっているという。「長く続けて、顔を見せていくことが、地域の活動には大切。子どもたちや地域の人から信頼を得るための鍵です。なかなか若い人が参加してくれないという声はよく聞かれますが、取り組みを工夫すれば30代、40代も参加してくれる。太鼓クラブやお神輿担ぎなどは、町会の壁を越えて参加してくれる人もいますよ。」

## 「お互いさま」の気持ちで支えあう

大学エリアのイメージが強く、地元の商店が軒を連ねる玉川学園。学生の街としてのイメージがあるこの場所でも、さまざまな理由で日常生活に困りごとを抱えている人は少なくない。そんな地域の「ちょっと手伝って」の声を拾うため、玉川学園地区社会福祉協議会（以下地区社協）で行う「玉ちゃんサービス」などの運営に携わっているのが、宍持勝さんだ。「ひとりで家を掃除するのが大変だったり、草取りの作業が難しかったり。そんなちょっとした困りごとを、有償ボランティアの形でお手伝いをしています。お金は、協力してくれた人へのほんのお礼の気持ち。何よりも、お互い様、喜んでくれて何より、という気持ちで成り立っています。」と宍持さんは語る。

玉川学園に引っ越してきた若いころは、家から仕事場に通うばかりで、地元の人とつながることはなかった。一方で、家族は学校や趣味のサークルなどで地域の人とのつながりを築いていることに気が付いた。

人事畑で仕事に打ち込むかわら、将来のために勉強したいと思い、50代のときにカウンセラーとキャリアコンサルタントの資格を取得。資格を活かしつつ働く中で、この経験を活かして自分ももっと地域の人と関わりたいと思ったという。これが、「玉ちゃんサービス」だけでなく、誰もが気軽に立ち寄れる相談場所「街かどなんでも相談室」という地区社協の事業の立ち上げにもつながった。

「『街かどなんでも相談室』のチラシを配っていると、『ほんとに何でもいいの？おしゃべりするだけでも？』と聞かれます。ふらっと立ち寄ってお話していただくだけで良いんです。」中には、一人暮らしで1週間、誰とも話していないという人もいたという。「立ち寄って良かった。」と安らいだ表情を見せてくれたときに相談室の意義を実感するそう。

ちょっとしたつながり、支え合いが大切にされている場所をあなたも訪れてみてはいかがだろうか。



玉ちゃんサービスのロゴマーク。



街かどなんでも相談室のチラシ。



活動場所の芹ヶ谷公園。春は桜が満開に。



原町田地区協議会でやっている見守り活動の看板。

挨拶してもらえると、こっちも元気になります、と笑顔で話してくれた岩崎さん。一つの取り組みがほかの地域に広がっていくと本当にうれしいと目を細めた。

人と人がつながりあうことで、地域に暮らしやすさが生まれてくる。できることから始めて、様々な人とつながっていく岩崎さんたちの活動は、これからも続いていく。